

川田貞治郎の「教育的治療学」の体系化と その教育的・保護的性格に関する研究

小田原家庭学園における着想から藤倉学園における実践まで

高野聡子 著

●たかの さとこ
(聖徳大学児童学部講師)

かわだていじろう
川田貞治郎 (1879~1959) は——

第二次世界大戦以前に民間が創設した精神薄弱児入所施設の一つで、大正8(1919)年6月7日、東京府大島に設立された財団法人 ^{ふじくらがくえん} 藤倉学園 (現在の社会福祉法人藤倉学園) において、設立時から彼が死去するまで常任理事・学園長として施設運営にあたった人物である。とりわけ学園長としての彼の業績は、藤倉学園での教育と保護の理論ならびに方法を教育的治療学と命名し、形成ならびに体系化したことであった。(…)

本書では、戦前の精神薄弱児に対する教育と社会事業の制度が未整備な中にあった精神薄弱児施設での教育と保護の実践およびその実態を探るべく、川田がいかなる理由から

「教育的治療学」を構想、体系化し、それはどのような内容と方法で構成されていたのか、また彼の教育的治療学が、当時の精神薄弱児施設での教育と保護の理論ならびに方法としていかなる意義があったのかについて明らかにすることを目的とする。(序章 本書の目的 より)

“教育的治療学”

その体系化過程と理論・方法・実践の
全貌を初めて提示

戦後における
障害児(者)教育・福祉史研究の
到達点の一つ

中村満紀男

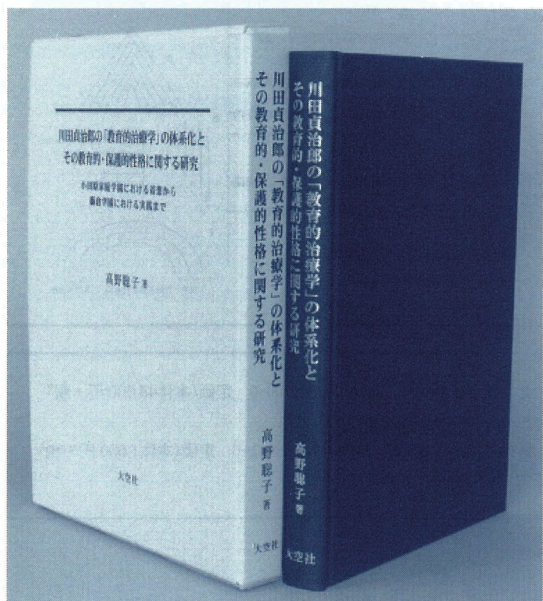
川田貞治郎の実践と研究についてはこれまで、一定の範囲でかなり知られていた。高野さんの著書は、直接には、川田の独創的な「教育的治療学」に焦点を当てて、その生成過程を小田原および水戸時代にまで遡りながら考証し、さらに、当時、世界の最高水準にあったアメリカ精神薄弱研究に身をおいての構想立案、帰国後の体系化の努力と戦時下における一部修正までの川田を辿ることに成功した。こうして、川田の教育的治療学の体系化の過程の全貌が初めて提示されたのである。(序より)

(福山市立大学教授・筑波大学名誉教授)

販売

大空社出版

(発行 大空社)



目次

序 中村満紀男

序章 本書の目的・課題と方法

第一章 感化教育における心練学の萌芽形成と適用対象としての低能児教育への転換

第一節 不良少年と低能児を対象とした心練学

感化教育としての心練学の萌芽 / 水戸友会時代の心練学の着想とその対象としての低能児と不良少年

第二節 低能児教育としての心練の実施とその限界

第三次小学校令第17条各種学校としての日本心育園の創設とその背景 / 日本心育園における低能児教育の内容とその実際 / 低能児教育としての心練の変化と教育方法としての探究

第二章 アメリカ合衆国精神薄弱者施設における教育的治療学の構想

第一節 教育的治療学へのアメリカ精神薄弱研究の導入

川田の滞在期間の選択理由と滞在目的 / H.H. ゴダードの精神薄弱児遺伝の法則と分類基準の導入 / 絵画分析とセガン・ゴダード版フォームボードによる精神薄弱診断方法の導入

第二節 教育的治療学体系へのアメリカ精神薄弱者施設論の影響

施設対象論と教育的治療学の対象の構想 / 施設機能論の構想 / 教育的治療学の内容と方法の構想

第三章 教育的治療学の体系化・内容の変化とその意義

第一節 教育的治療学の体系とその意義

教育的治療学の体系の変化と目的 / 教育的治療学の対象設定と集団編成の変化 / 教育的治療学の構成内容・方法とその意義

第二節 藤倉学園創設期における教育的治療学の教育的・保護的性格

藤倉学園の創設経緯とその目的 / 藤倉学園創設期における入所対象者の想定とその実態 / 保護環境下での退所を前提とした施設機能論 / 教育的治療学の教育的・保護的性格とその実際

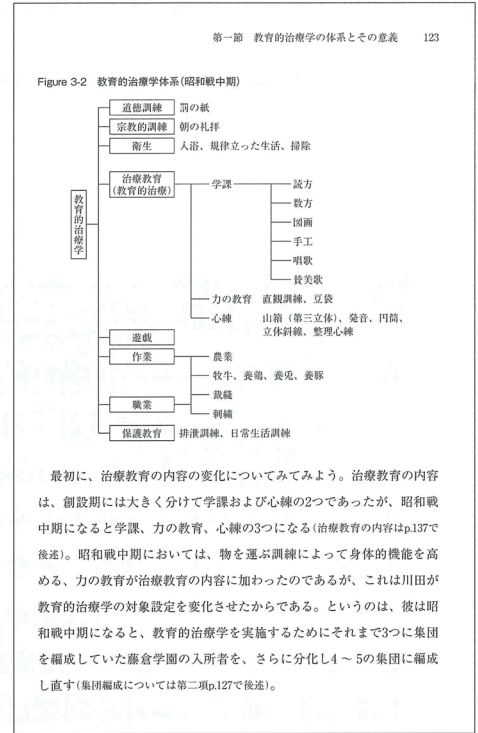
第三節 昭和戦中期の教育的治療学における施設内保護論の本格化とその背景

昭和戦中期藤倉学園の入所対象者の想定とその実態 / 退所条件の限定と施設内保護の本格化 / 昭和戦中期の教育的治療学の教育的・保護的性格とその実際

終章 まとめと今後の課題

文献・索引

組見本(縮小)



対象としての低能児教育への転換

第一節 不良少年と低能児を対象とした心練学 37

の中心を確認するという方法であった²⁹⁾。これは、すでに小田原家庭学園時代から構想された方法で、心練の準備として必要とされたことは、心を中心させることであった。

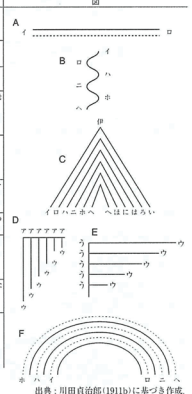
以下にそれぞれの心練を名称、目的、具体的な手順と方法、それによって得られる作用の観点から分析する(Table 1-5)。

(著者) 高野聡子 (たかの さとこ)

1978年生まれ。2008年筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科修了。博士(心身障害学)。現在、聖徳大学児童学部専任講師。編著書に、『特別支援学校教師になるには』(ベリかん社)、論文に「藤倉学園創設期における川田貞治郎の「教育的治療学」の内容とその背景」(『社会事業史研究』)、「川田貞治郎の「教育的治療学」の体系と内容の変化―藤倉学園創設期から昭和戦中期を中心として―」(『障害科学研究』)など。(2013.11)

Table 1-5 心練学の指導内容

心練の内容	名称	目的	方法	作用
①心型	形になし	心に達すること	①直観を覚悟させる。②直観を見せる。③教育者が静かで→(図A)を静かになり、被教育者は目を見ない。	心に達する。図A
	形になし	思考を練習すること	①直観(図A)を静かになり、被教育者は目を見ない。	直観と直観との意味を理解する。図B
	形になし	知覚を生じさせること	①三角形の図をイ→ア→イの順で目で送る。	直観運動の、心の作用が自然になる。図C
②言葉から心型	言葉より思考に誘う	想像を練習すること	①ア、アと目を閉じて発声し、直観する音に反応させる。②ア→アと直観を等しく発声し、直観を練習させる。③直観を覚悟がアから→(図D)を覚悟させる。	目的運動と「思考」することによって作用が活発になる。図D
	直観呼吸との関係	思考を覚悟させること	①ア→ア直観で直観を覚悟させる。心に直観を集めるようにすること。②「呼吸」をさせて、直観呼吸をしながら発音させる。	直観な思考力が養成されるようになる。図E
	思考より人の心練	教育的思考を養成させること	①イ、ロ、ハ、ホという直観(図F)を覚悟させ、目で見つめさせる。②直観の間の直観を覚悟させる。	1から無数という直観な概念から直観な概念を養成させる。図F
③皮膚より心練	形になし	意志を動かせること	①直観の直観を十分に開く。②直観の直観、イ(直観)からイ(直観)の直観を覚悟させる。	努力、熱心、至誠などの具体的直観を養成するための基本となる。
	皮膚と感覚運動	直観現象を加え、思考させること	①両手を合わせて、右と左の直観(大直観)を覚悟させる。②直観の直観を覚悟させる。③直観の直観の直観はくっつけておくこと。④③①②のように他の直観でも、①②③に動かす。	直観法の覚悟が自然になる。直観な概念を養成する。
	直観を練習させること	直観を練習させること	①直観を直観に直観を入れて、直観直観を直観させる。この時直観に直観させる。②直観直観に直観させる。③直観直観に直観させる。④直観直観に直観させる。	直観の練習から、直観直観が直観になり直観な概念を養成する。
大、中、小、別の直観を直観させること	直観を練習させること	①手を合わせて、直観を直観させる。②直観直観に直観させる。③直観直観に直観させる。④直観直観に直観させる。⑤直観直観に直観させる。⑥直観直観に直観させる。⑦直観直観に直観させる。⑧直観直観に直観させる。⑨直観直観に直観させる。⑩直観直観に直観させる。	目的と同じ作用。	



知的障害者教育・福祉の歩み 滝乃川学園百二十年史 滝乃川学園・津曲裕次監修編集 全2巻 [2011.12] 978-4-283-00700-0 定価(本体48,000円+税)

シリーズ知的障害者教育・福祉の歩み1 滝乃川学園 石井亮一・筆子が伝えた社会史 (1) 女子教育から知的障害者教育へ 津曲裕次著 [2012.8] 978-4-283-01011-6 定価(本体1,600円+税)

シリーズ福祉に生きる 48 川田貞治郎 吉川かおり著 [2001.12] 978-4-283-00078-0 定価(本体2,000円+税)

販売
大空社出版
(発行 大空社)

〒114-0032 東京都北区中十条4-3-2
TEL : 03-5963-4451
FAX : 03-5963-4461
E-mail: eigyo@ozorasha.co.jp

*お取り扱い